

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第60回放送の概要 (2013年2月23日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) エキストラ珈琲は、神戸で初めてのコーヒー豆焙煎問屋として、大正12年に誕生。今年で創業90周年迎えました。これもひとえに皆様のお陰と心より感謝申し上げます。この先も、高級コーヒーを厳選し、評価に値する味を提供し続けたいと考えます。どうぞよろしくお願い致します。本日はエキストラ珈琲様 (電話 078-671-0135) のご協力を頂きました。

1. オープニング

本日はさくらさんはお休みです。アコ、なか、タロウでお送り致します。

2. ゲストコーナー (1) : 兵庫高校総合科学類型 : 西雅之さん、長谷川瑛一さん、小林彩夏さん、戸野美柚さん、山之内先生、大前先生

総合科学類型の1年生の1年間の取り組みは、1学期はグループ毎に地域の中に入り、社会科学的な取り組みとして、長田区役所の担当の方から基調講演を受け、課題を見つけグループごとに研究を進めた。2学期は神戸大学発達科学部大学院生の設定したテーマに沿って、自然科学分野の研究をグループ別に進めた。3学期は1, 2学期のいずれかのテーマを個人毎に選択し研究を深めた。今年度は3学期に県のビジョン課の方から、兵庫県における問題点の話聞き、県の問題にテーマを広げて設定し取り組んでいる生徒もいる。また1学期のテーマを2学期に自主的に継続して取り組んでいる生徒もいる。また3学期に2~3人テーマを共有し取り組んでいる生徒もいる。

①西雅之さん (テーマ: 放置駐輪を撲滅しよう)

東日本大震災発生時、祖父の家が神戸だったので昨年福島県福島市から神戸に転居した。福島市は結果的に避難対象地域にはならなかった。父親は仕事の関係で福島に住んでいる。これまで福島には友達に会いに2度程帰ったが遠いこともあり、神戸の生活にすっかり馴染んでいるので今は問題はない。

基調講演で新長田の放置駐輪が多いという話があり、取り組むことにした。西部建設事務所に行き、放置駐輪を減らすための方法について話し合った。長田は2段駐輪場が整備されており、正しく駐輪している人もいるが、使用率は50%程度である。空いているのは2段目の方で、取り付けにくいためと思われる。面倒というのが理由である。調べた駐輪場は地下であったが入りやすい場所に設置されていた。朝急いでいる時は駅から離れていると利用しにくいし、夜、周りが暗くなると特に女性は利用しづらい。対策としては物理的に止められないようにする、ここは自転車の捨て場ですという表示をするなどがあるが有効な対策が見つからないのが現状である。このテーマに取り組んで良かったことは、放置駐輪の

実態や駐輪場所が分かりづらい位置にあることなど、現場に行って調査することの重要性を認識したことである。

②長谷川瑛一さん（テーマ：蛍の住める川にするには）

蛍をこれまで見たことがなかったので、長田の川にも蛍が住めるようになればいいなと思い取り組んだ。市役所環境局に行き話を聞くと、安易に蛍の放流は出来ないと言われた。新湊川に蛍が住めるようにするにはどうすればよいかを考えるため、水質調査を行った。神鉄丸山駅近くの苧藻川には蛍が住んでいるので、新湊川と苧藻川の水質調査（PHとCOD）を行った。新湊川はアルカリ性で苧藻川は中性で実現が難しい事がわかった。70 陽会の手取さんと宮道さんが新湊川に蛍をとという活動をしている。蛍は幼虫の時にカワニナという稚貝以外は食べない。「美しい丸山を創る会」は月に一度川の清掃をしているので自分たちも参加し、清掃とバーベキューなどのイベントとを組みあわせ、楽しみながら川の大切さとゴミを捨てない心の醸成に取り組みたい。テーマに取り組んで良かったことは、1 学期に初めて苧藻川で蛍を見たことがとてもうれしかったことである。

3. ミュージック

木村ハルヨさんの二胡演奏による、アルバム「青春回帰編」から、チャゲ&アスカの万里の河をお送り致します。

4. ゲストコーナー（2）

③小林彩夏さん（テーマ：理想のビオトープと心の癒し）

ビオトープ（生物空間、生物生息空間）は bio（命） + topos（場所）の造語で、生物が住みやすいように環境を改変することを指す。水辺だけでなく家で鉢に水草を入れて楽しむこともビオトープで、生活に身近なものである。長田区は自殺者、うつ病、育児放棄が少し多いと言うことを聞き、身近なところで心の癒しを創りたいと思った。老若男女を問わず居心地の良い町にしたいと思い、皆が簡単に楽しめるよう動植物の力を借りて長田に癒しを創りたいと思った。市役所の地球環境課に行き、ビオトープの専門家を紹介してもらい、専門家と一緒に駒ヶ林小学校隣のビオトープを昨年夏に見に行ったところ、特定外来種のオオフサモが繁殖していたため駆除した。作業はとても大変だった。オオフサモは 1920 年頃にドイツ人が持ち込み、大繁殖したもので日本固有の在来種への影響も大きく、水流を阻害することから駆除が必要である。しかし、自然復元事業やビオトープなどに、見た目にも良く、水質浄化機能も高いので安易に入れてしまうことが多い。駆除後地域の生態系も大切という観点から、西区平野町の大池からヒシとエビモを取り寄せビオトープに入れた。水深が浅いため夏には干上がりなくなってしまった。ビオトープは子供達の遊び場になっているので、植物を育てるのは難しいため、再度植えなおす前にやるべきことは、小学校に出向き子供達にビオトープの意味を劇、紙芝居、お絵かき教室などを使ってしっかり伝えることである。



駒ヶ林小学校隣



真野

ビオトープは日頃の世話が難しいが、うまくいっている例として東尻池の真野地区のものがある。駒ヶ林小学校の隣のビオトープは、管理する人が最初はいたが今はいない状態である。子供達に興味を持ってもらい、世話の仕方を知り、そして住民の方に参加してもらうのが大事である。学校の先生の協力を得て、はじめに子供の意識改革をしていくのがもっといい方法である。テーマに取り組んで良かったことは、初めはビオトープらしくしようと強く思っていたが、とんぼが飛んできたりする地域の生態系、環境が大事であること、色んな人の共感を得るのはとても大切であることを学んだ。

④戸野美柚さん（テーマ：おもろいにいちゃん、やさしいねえちゃんになろう）

子供と学生が遊ぶ機会を増やす企画をするのが研究内容です。長田の少子化問題を受けて、元気な子供と元気な学生が遊ぶことで子育て世代の方の手伝いをしたいと考えた。長田保育所の保育士の方と神戸常盤大学教育学部の先生から話を聞いた。保育士の方からは、子供と接する上で精神面、安全面、躰の面で気をつけること、親御さんに対する気遣いなどを聞いた。先生からは企画する上での注意事項、どのような遊びがよいかなどを伺った。子供は年齢別に気をつけることがあり、1～2歳児は誤飲、走り回って怪我をしないような配慮、精神面では目いっぱいスキンシップをとること、いけないことをした時はダメと言って禁止するのではなく、楽しい気持ちにさせることが大事、3～4歳児は自我が目覚めてきてやりたいことが出来ないことが起きるので、さりげない手助けで自分で出来た気にさせることが大切。スキンシップはやはりとても大事。5歳児は社会性を育む事が必要といった話を聞いた。

3月30日開催の第3回高校生鉄人化まつりでは、子供と高校生が遊ぶことを試験的に実施する。鉄人広場でテントを建て、幼児を対象に手作りおもちゃで遊ぶことを考えている。年齢別で難易度をわけ、くつつけるだけのおもちゃ、細いところを通すおもちゃなど、具体的にはぶんぶん駒、けんだまなどを作って遊ぶ事を考えている。

高校生鉄人化まつりは、実行委員長が長谷川瑛一さんと長田区の高校生が主体となって開催される。これまでは各校の部活だけの参加であったが、今回はサブステージを設け、ポスターで公募したグループにも出演してもらう予定。兵庫高校からは書道部、吹奏楽部、ダンス部、ギターアンサンブル部が出演を予定している。まつりは、3月30日（土）午前11時～17時に鉄人広場で開催され、まつりポスター及び出演者公募のポスターは美術部部長の戸野美柚さんが作成したものである。

総合科学類型は今年初めて卒業生を送りだすが、生徒の視野が広がった事、何事にも積極的に取り組む姿勢が見られた事、3年生になり受験勉強においても、こだわりがあり、自分の夢をどう実現するかを考えて頑張っている。大前先生は兵庫高校に来て9年目になるが、生徒が初めて神戸大学医学部医学科の推薦入試に受かった。彼女が4期生の合格者説明会で様々な体験を語り、総合科学類型で学べてよかったと言っていた。今年4期生の受験生の倍率はこれまでで最も高く、中学校において、総合科学類型で何をするのかが認知されるようになったと思われる。

5. 来月のゲスト

来月は真野地区で長年まちづくりに取り組んでこられた、清水光久さんにお越し頂きます。

